



「働き方の変革を！」

石元 洋子

仕事でどんなに活躍できても育児や介護が思うようにいかないと辛い。それに対し、子育て支援や介護サービスがもっと充実すればと考えてきた。しかし、今回の研修でオーストラリアでは残業が殆どなく、ジョブシェアが進み、柔軟な働き方ができる職場が増えている実態を知り、我が国でも働き方をもっと変えていかなければと思った。

「シドニースタイル」

大嶋 薫

相手にも自分にも完璧を求めるのではなく、今自分に出来る事を精一杯やる。受け身ではなく、自らの責任において人生をプロデュースする。「割り切る」と「PULL型」。この2つの言葉が今回の研修で最も印象に残りました。この2つのキーワードを「シドニースタイル」と名付け、これからの人生の指針にしていきたいと思います。



「自分らしく生きる」

小島 正美

家庭(ライフ)を大切にする社会ゆえ残業なし、安定したパート、分業、週数日の保育園などが定着してきたことが今回の訪問で理解できた。協調性を重んじ仕事(ワーク)を優先する日本に浸透させるには、制度だけでなく意識改革も必要。ワーク、ライフのバランスを各自が選択でき、どの生き方も尊重される社会が目標であると感じた。

「ほどよく絶妙に…」

小沼 定子

100%徹底したサービスを提供する日本と「必要最低限のことはやりましょう。90%で良いのです。」とするオーストラリアの国民性。協調性を大切にする日本と個性を大切にするオーストラリアの子育て。お互いの良いところを吸収し、その相乗効果によって良い人間関係が築かれ家庭生活や仕事がより充実したものになるのではないかと感じました。



「オーストラリアにふれて」

小野瀬 とき子

オーストラリアで一番感じたことは、「女性として、女性だからこそ」ではなく人として何が出来るか考えることが大事だということでした。私にとって6日間の研修は実り多きものと実感しております。そして、なにより研修員の皆さんとのつながりに感謝しています。

この経験を地域でしっかり種まきし、大きく育てたいと思います。



「心豊かに生きる」

土屋 恵子

残業もなく、テレワークやフレックスタイムが当たり前のオーストラリア、人が心豊かに暮らしているように見えた。仕事と個の生活をバランスよく保ち、心豊かに生きるためには何が必要だろうか。日本は何か「し過ぎている」ことが多いと感じる。もっとシンプルにしていこうと思った。経験に勝るものなし。この経験を生かしたい。

「学び多き旅」

寺内 京

幼い頃から個性と多様性を尊重する環境に育ち、自分自身そして家族との時間を何より大切にする人々。そのためにより良い働き方を模索する人々。学業や仕事の合間に、またリタイアした後に地域のボランティア活動に参加する人々。ワークライフバランスを重視し、ゆったりと心豊かに人生を送ることを、オーストラリアの人々から学んだ。



「これからの私」

寺木 久美子

私も現在ボランティア活動に参加しています。これまで、誰かに依頼され活動に参加していたような気がしていました。今回の研修で、シドニーの人々は自分の健康や趣味、生活の楽しみ、そして「生きがい」のためにボランティアに参加していると知り、感銘を受けました。これからは、私も生きがいと言える活動をしたと思いました。

「出会いに感謝!」

中庭 陽子

茨城で、シドニーで、出会いのなかった人たちと出会い、真摯な話が聞けた。地域や国、仕事が違って、思いは同じ。一人ひとりが大切にされる社会に、一人ひとりが輝く社会にしたい。それぞれが自立して生きる社会をシドニーで見、そして、それを支える教育や制度を知った。多くの学びを与えてくれたハーモニーフライトに感謝!



「意外と日本の方がよかったりして?」

藤澤 利枝

保育園の視察をし、個性や感性を生かす保育や多様性の受容など、さすがと思う反面、保育制度に関しては、日本の「保育園へのアクセスの良さ」を再確認しました。「保育料が高いから、就労を制限して自宅で見守る」ことが可能なほど充実した豪の労働政策。個人的な意見としては保育政策の充実を優先したいです。



「いま、働き方に变革を」

増淵 名月

今も日本に多い「男性だから、女性だから」という考え方がなくなれば、仕事も能力に応じた評価になり、女性もより活躍できるようになって、地域や企業、さらには経済の発展につながるのではないかと。フレキシブルな就業時間や仕事を分け合うジョブシェア等、今後の日本が見習うべき点は多く、少しずつでも導入できれば良いと思った。

「私が海外に行くなんて…」

松山 和子

海外に行く、しかも旅行ではなく研修で！ハーモニーフライトのメンバーになり、今までの私には想像できないことばかりの日々でした。初めてづくしの半年でしたが、視察先の子どものキラキラの笑顔を見たら、私も笑顔いっぱいになりました。この研修で学んだことを活かして、笑顔で様々な活動を続けていこうと思います。



「ハーモニーフライト2016に同行して」

茨城県女性青少年課 総括課長補佐 海老根 功

今回のハーモニーフライトには、事務局として随行させていただきました。オーストラリアには多くの民族が生活しており、日本とは働き方や労働者の意識に大きな違いがあり、特に、就労上の人種による差別や男女の差別はなく時間外勤務もないことなどから、家庭生活にゆとりがあり、女性が様々な立場で生き生きと活躍していました。

今後は、フライトで得た知識を業務に活かし、女性が就業生活と家庭生活を両立し活躍できるような環境の整備に努めていきたいと思います。

いきいきいばらき女性塾事業（ハーモニーフライトいばらき2016）は下記の企業の御支援により実施しました。

株式会社常陽銀行 水戸ヤクルト販売株式会社 茨城県信用組合
株式会社坂東太郎 株式会社筑波銀行 木内酒造合資会社